

研修報告 F班1グループ 「F-1大学(仮)」

テーマ「幸せになるために」

I. テーマ選定に関して

1) 大学の役割

グループメンバーの各大学の建学の精神等を参考として討議した結果、激動する社会に対応し、グローバルに活躍できる人材が求められているとの結論に至った。そこで、これからの大学の役割を「多様性を認め、世界に貢献できる人材を社会へ還す」と捉えた。また、社会へ出た際に、「4年間の大学生活はとても満足したものだった」と感じてもらうことが学生自身の人生の幸福に繋がると考えられるため、学生が満足して社会へ羽ばたいていけるようサポートすることも、大学の役割と考えた。

2) 役割を果たすために大学がすべきこと

私たちのグループでは、学生が柔軟性、応用力、発想力、コミュニケーション能力を身に付けることが必要と考えた。そこで、仮想の大学(F-1大学)の設立を行い、①自発的に学び続けることができる人材の育成、②グローバル人材の育成、③社会の変化に対応できる人材の育成の3点を仮の教育の理念として掲げた。F-1大学では、質の高い教育の学生への提供や「学生生活の充実=やりたいことができる(できた)」と考え、学生の要求に応えることが必要だと考えた。

3) 大学(学生)の現状

学生の学力や学習意欲に大きな差があるほか、「やりたいことが分からない学生」、「やりたいことがあるが具体的な方法が分からない学生」、「将来のビジョンが不明確な学生」が増加している。また、そのような学生と教職員とのコミュニケーションが希薄である。

4) テーマ選定理由

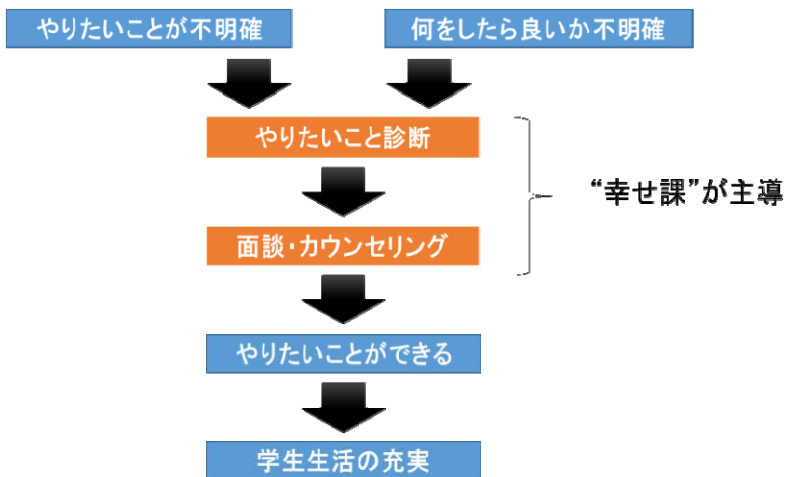
現状の課題である、「やりたいことが分からない学生」、「やりたいことがあるが具体的な方法が分からない学生」、「将来のビジョンが不明確な学生」が増加していることと、学生と教職員のコミュニケーションが希薄であることに着目した。やりたいことを見つける手助けをするシステムを構築し、学生が教職員と接する機会を設けることで、学生がやりたいことを見つけ、実行できるように促す。そうすることで学生生活を充実したものとし、結果的に人生の幸福へ繋がることが期待できるため、このテーマを選定した。

II. 解決策の検討

課題解決の策として“診断アプリ”に着目した。“診断アプリ”とは、いくつかの質問に回答すると、回答者の興味があるものや性格などが結果として表示されるシステムである。このシステムを“やりたいこと診断”と題して作成する。通常、診断が終了するとすぐに結果が表示されるが、あえて結果は表示させずに、専門の部署（通称“幸せ課”）に結果のデータが集約される。そして、結果に対する面談を一人一人行うことで、授業の紹介や研究室の紹介、就職先相談などが行える。

システム導入に関して、結果の配付及び面談を行う部署として、“幸せ課”を設置する。“幸せ課”には学生支援・教務・就職支援・国際交流の機能を集約し、人手が必要な面談時には、SAなど教職員以外の人員を配置する。若手メンバーで構成することで学生が相談し易い

環境を提供することができる。また、1年次から“やりたいこと診断”を利用してもらうことで、診断の存在と“幸せ課”の認知度を高める。そうすることで、4年間の学生生活のなかで困ったことや悩みがあれば“幸せ課”へ行けば解決する。といったイメージが広まり、幸せ課は学生生活の支援に特化した部署となることが期待できる。



III. まとめ

私たちは、大学の役割を“多様性を認め、世界に貢献できる人材を社会に還すこと。”と定めた。そこで、大学の役割を達成するための現状確認及び課題について議論した。一方、“学生自身の人生の幸福とは何か”についても議論し、「やりたいことができた」と感じてもらうことが重要。との結論に至った。

二つの議論の共通課題として、“やりたいことが分からない学生”、“何をすればよいか分からない学生”が多く存在するのではないかとの仮説を立てた。そこで、ICTを活用した解決策として、“診断アプリ”を応用した“やりたいこと診断”を提案した。提案内容については前項で説明した通りである。実行されれば、教職員と学生のコミュニケーションを生むツールとなることが期待できる。

以上の提案が実行され、学生がやりたいことを見つけて学習に取り組み、社会へ出た際に「充実した学生生活だった。」と感じてもらえれば、私たちにとって幸いである。